



▲「お互い思いやり、干渉すぎないことが夫婦円満の秘訣」と語る織田恒徳さん、京子さん夫婦（田原町）を撮影する宮本さん（左）

原爆の惨状と向き合う 中学生が広島を訪問

8月7日、市は市内の中学生を対象とした平和学習バスツアーを実施しました。参加した生徒たちは、広島市の原爆ドームや原爆の子の像を見学したほか、原爆死没者慰霊碑の前で静かに手を合わせました。さらに、被爆者の貴重な講話や平和記念資料館での展示の見学を通し、平和への思いと尊さを改めて深く胸に刻む一日となりました。



▲パルナス製菓のキャラクター人形や歴史を伝える写真などの展示品に見入る来場者

パパと子で挑戦 夏野菜ガパオライス

7月25日、市民会館で加西市いずみ会と共催の「パパと子の料理教室」が開かれ、8組21人が参加しました。いずみ会会員の丁寧な指導のもと、包丁の使い方に気をつけながら旬の夏野菜を使ったガパオライスやシャカシャカサラダ、ココナッツミルクゼリー作りに挑戦。力を合わせて作った料理を笑顔で味わい、親子の絆を深める機会となりました。



▲最優秀賞と優秀賞が各部門からそれぞれ選出されました

一枚に心を込めて 記念写真累計3千組超え

7月15日～17日、フォトスタジオ栄光社の宮本博文さん（北条町古坂）が、出張ボランティアで長年連れ添った高齢者夫婦の記念撮影を行いました。昭和34年からボランティアで撮影を続けており、今回で累計3千組を突破。宮本さんは「これからも、お二人の大切な節目を、一枚一枚の写真に心を込めて残していきたい」と話しました。



▲慰霊碑に献花を終え、平和への願いを胸に記念撮影をする生徒たち

創業者の故郷・加西で「パルナス展」

7月25日から31日まで、創業者の故郷・加西市のアステアかさいで「パルナス展」が開催され、計940人が来場しました。「モスクワの味」のCMや名物ピロシキで親しまれた洋菓子メーカーの歴史を伝える展示のほか、25・26日にはピロシキ400個が即完売。パルナス復刻委員会の藤中健二さんは「加西から生まれた歴史を次世代へ伝えたい」と話しました。



▲いずみ会の会員に教わりながら調理する参加者

うちわで彩る サイサイまつり

8月1日～2日開催の「第49回加西サイサイまつり」をPRするうちわデザインが決定しました。小学校低学年、高学年、中学生、高校生の4部門、計159点の応募があり、最優秀賞4作品のうちわは、祭り会場などで配布されました。最優秀賞▶植木月陽さん（北条東小3年）、荒木香瑞華さん（富田小5年）、小林菜奈さん（北条中2年）、藤本夏穂さん（西脇工業高校3年）

満員御礼！北条鉄道・夏の特別列車

7月19日・20日、北条鉄道で「かぶと虫列車」が運行され、計361人が乗車しました。車内はカブトムシを手にした子どもたちで賑わい、兵庫教育大学の学生によるクイズや絵本の読み聞かせ、じゃんけん大会などが行われました。参加した真柄紬希さん（北条小1年）は「初めて乗った北条鉄道でカブトムシと一緒に過ごせて楽しかった」と笑顔で話しました。



▲カブトムシクイズで盛り上がる車内



▲各ブースを回り、参加者にインタビューする北条高校放送部（写真は葉っぱのスタンプアートの様子）

女子サッカー選手と運動 親子ボールあそび

7月12日、健康福祉会館でなでしこリーグ所属の女子サッカーチーム「ASハリマアルビオン」による親子ボールあそび教室が開催され、66人が参加しました。幼児から小学2年生までの親子が選手から手ほどきを受け、運動遊びやミニゲームを満喫。「サッカーは初めてだったけど、楽しかった」と目を輝かせる子どもたちの声が響き、親子の絆を深めるひとときとなりました。



▲親子でミニサッカーを楽しむ参加者



▲杉本さんから直接指導を受けて太鼓を作る参加者

命の尊さと職人の技を体感 親子で太鼓作り

7月26日、善防公民館で太鼓作り教室が開かれ、市内の小中学生29人が参加しました。十八代目太鼓屋六右衛門の杉本大士さん指導のもと、児童は保護者と牛革を使った本格的な太鼓作りに挑戦。力の要る作業にも集中して取り組みました。革を通して動物の命の尊さや職人の思いに触れる体験となり、参加者は命に感謝を深める貴重な機会となりました。

加西市を表敬訪問 ウズベキスタン訪問団

7月26日、国連開発計画（UNDP）ウズベキスタン事務所と政府幹部で構成された訪問団が加西市を表敬訪問しました。市が取り組んできた水資源の管理や処理技術、環境にやさしいまちづくりのほか、デジタル技術を活用した取り組みなどについて活発な意見交換が行われました。訪問団は加西市の污水处理施設なども見学し、先進的な取り組みに関心を示していました。



▲高橋市長（前列右から3番目）と訪問団の皆さん